

みやぎ発信型新規野菜の安定生産技術(花ズッキーニ)

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

当所では、宮城県とイタリア・ローマ県との友好姉妹協定を契機に、イタリア野菜の生産普及に向けた技術開発を行っている。これまではプンタレッラ(ローマ近郊の伝統野菜)とタルディーボ(レッドチコリーの細葉不結球タイプ)の栽培技術を確立し、すでに宮城県内で生産が開始され、外食業務向けに販売経路を開拓している。

これらのような、国内供給を輸入に依存している品目は他にも多数ある。また、生産農家が商業的に生産するには複数品目を扱う場合が多い。そこで、西洋料理店等で需要の見込まれる有望な品目として花ズッキーニについて、宮城県内における作型と安定的に生産できる技術を体系化したので普及技術とする。

2 普及技術

1) 特徴

ズッキーニ(ウリ科カボチャ属)の日本国内での一般的な利用部位は果実であるが、雄花、雌花を食材に利用する方法も知られている。花の中に詰め物をして揚げるのが一般的な調理法である。他にもリゾット等の加熱調理に広く使われる。



図1 ズッキーニの花

2) 作型

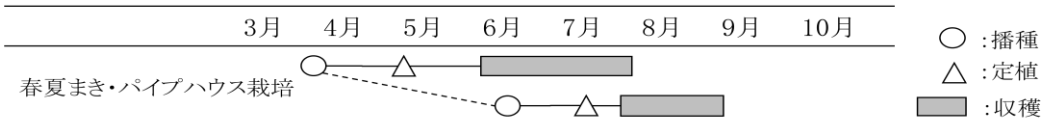


図2 宮城県における花ズッキーニの作型

3) 品種

栽培には果実収穫と同様の品種を用いる。果実の種類は円筒型、丸型、黄色、緑色など様々である。栽培期間中の収穫花数や1花重量は品種によって異なり、「オーラム」、「ゴールドィ」は株1日当たり収穫花総数が多く、「ブラクトスカ」、「グリーンエッグ」は特に雌花の数が多く、緑色果実の品種は雌花の重量が大きい傾向がある(図3, 4)。

ズッキーニ1株の収穫日数100日当たりの収穫花数は、丸型の品種で雄花55~116個、雌花48~94個、円筒型で雄花66~99個、雌花42~70個である(図5)。

4) 栽培

基本的な栽培方法は通常のズッキーニ栽培と同様である。栽植密度は、1a当たり75~100株程度(畝幅130~150cm, 株間70~80cm)を標準とし、花の汚れ回避のためにマルチ栽培が望ましい。

5) 収穫・出荷

雄花、雌花とも開花日の早朝に、花弁が完全に開く前に収穫する。収穫後できるだけ早く密封して花弁の乾燥を防ぎ、鮮度保持のため低温庫内(10℃以下)に搬入するとよい(図6)。

3 利活用の留意点

1) 花ズッキーニ栽培の病虫害防除の要点は通常のズッキーニ栽培と同じであるが、作物名「ズッキーニ(花)」の登録農薬で防除を行う。

2) 経営試算の参考として、1a当たりの粗収益と生産経費を算出した(表1)。

(問い合わせ先: 農業・園芸総合研究所 バイオテクノロジー開発部 電話022-383-8131)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名および研究期間

みやぎ発信型の新規園芸品目の定着技術の確立(平成21～23年度)

2) 参考データ

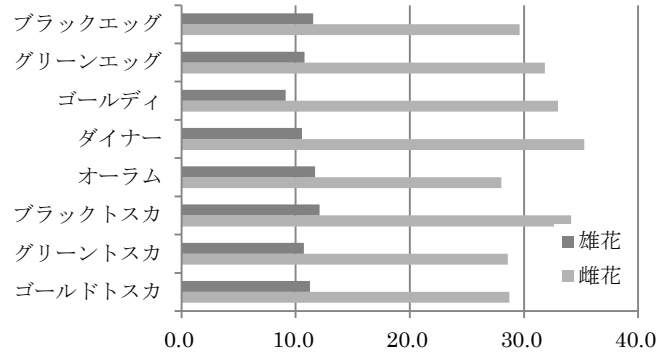
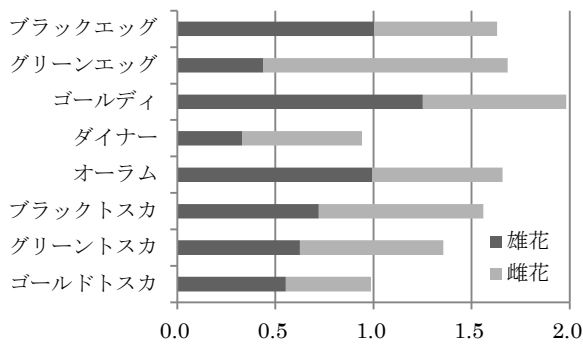


図3 ズッキーニ1株1日当たり収穫花数(平成21年度・52日間調査) 図4 ズッキーニ1花平均重量(平成21年度・単位 g)

*) 栽植密度: 1aあたり75株程度(畝幅150cm, 株間80cm)。

基肥は窒素成分で1.0kg/a, 追肥は収穫開始から20日ほどの間隔に窒素成分で0.3kg/a。

*) 品種名と果実品質は以下の通り。

- ・円筒型 「ゴールドトスカ」(黄), 「グリーントスカ」(緑), 「ブラックトスカ」(濃緑), 「オーラム」(黄), 「ダイナー」(濃緑)
- ・丸型 「ゴールドディ」(黄), 「グリーンエッグ」(緑), 「ブラックエッグ」(濃緑)

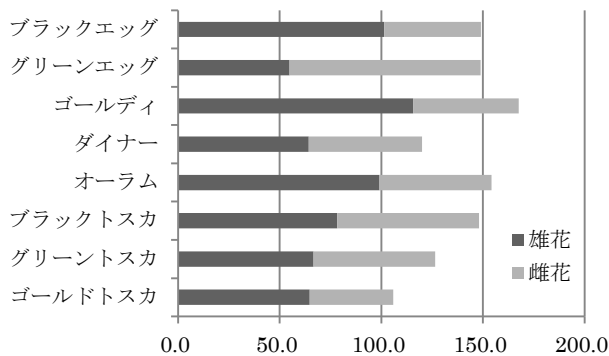


図6 ズッキーニ貯蔵温度と品質変化(左上: 収穫直後, 右上: 4℃または10℃で5日静置, 左: 15℃で24時間静置)

図5 ズッキーニ1株100日当たり収穫花数(平成21年度・単位 個)

*) 2回定植区の合計

- ・平成21年3月27日播種, 4月20日定植, 5月18日から7月10日まで収穫調査
- ・平成21年6月1日播種, 6月30日定植, 7月11日から8月30日まで収穫調査

*ポリ袋(厚さ0.03mm)に密封後, インキュベーター内で暗黒, 温度一定に静置(平成21年度)

表1 1a当たり粗収益, 生産経費

項目	金額(円/a)	備考
粗収益(円/a)	99000	・目標収量: 75 kg/a (雄花 30 kg/a, 雌花 45kg/a) ・参考単価: 雄花 1500 円/kg, 雌花 1200 円/kg ²
生産経費(円/a)	19460	・パイプハウス栽培を想定。出荷販売経費は含まれていない。

z) 生産者, 実需者からの聞き取り調査を参考に, 雄花10円/個, 雌花25円/個, 収穫日数50日で算出。

3) 発表論文等

a 関連する普及に移す技術

a) 「みやぎ発信型野菜タルディーボの安定生産技術」(第86号普及技術)

b その他

a) 東北農業試験研究 第63号 4) 共同研究機関 なし